

4 応急処置	目に入った 場合	直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全にあらうこと。 出来るだけ速く医師の診断を受けること。
	皮膚に付着 した場合	付着物を布で素早く拭き取る。 大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
	吸入した 場合	蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の手当を受けること。 蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けること。
	飲み込んだ 場合	誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。 嘔吐物は飲み込ませないこと。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
5 火災時の 処置	使用可能 消火剤	水 []、炭酸ガス []、泡 []、粉末 []、 乾燥砂 []、その他 []
	消火方法	適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。 指定の消火剤を使用すること。 高温にさらされる密閉容器は水を掛けて冷却する。 消火活動は風上から行う。 容器は高温で破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取ること。
6 漏出時の 処置	<p>作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。</p> <p>漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。</p> <p>乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸着させて回収する。</p> <p>大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。</p> <p>付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。</p> <p>着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。</p> <p>衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。</p> <p>付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をすること。</p> <p>河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。</p>	
7 取扱いおよ び保管上の 注意	<p>取扱上の注意</p> <p>換気の良い場所で取り扱う。</p> <p>容器はその都度密栓する。</p> <p>周囲で、火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。</p> <p>静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増）を使用する。</p> <p>工具は火花防止型のものを使用する。</p> <p>作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。</p> <p>スプレードストや製品が付着した布、紙、ローラーなどが積み重さなると自然発火する恐れがあるので、廃棄するまで水に漬けておくこと。</p> <p>皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり目に入らぬよう適切な保護具を着用する。</p> <p>取扱後は手・顔などを良く洗い、休憩所等に手袋などの汚染した保護具を持ち込まないこと。</p> <p>密封された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を付けて作業すること。</p> <p>異物（金属粉等）・過酸化物（硬化剤）の接触で発熱する。と混合接触させないこと。</p>	
	<p>保管上の注意</p> <p>日光の直射を避ける。</p> <p>通風の良いところに保管する。</p> <p>火気、熱源から遠ざけて保管する。</p> <p>40℃以上のところで保管しないこと。</p> <p>水回りや湿度の高いところに保管すると、容器腐食して破裂のおそれがあるので保管場所に注意すること。</p> <p>消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。</p>	

8 暴露防止及び保護措置	組成物質の有害性及び暴露濃度基準				
	成分名	管理濃度	ACGIH(TLV)	IARC	その他有害性
	スレン	20 ppm	20 ppm	2B	LD50(経口):5,000mg/Kg
	メタクリル酸メチル		50 ppm	3	LD50(経口):7,900mg/Kg
施設対策					
<p>取り扱い施設は防爆型を使用する。 排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。 液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースを取るよう設置する。 取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような施設とすること。 屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用するなど作業者が直接暴露されない施設とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような施設にすること。 タンク内部などの密閉場所で作業をする場合には、密閉場所、特に底部まで十分に換気ができる装置を取り付けること。</p>					
保護具	目の保護	取り扱いには保護メガネを着用すること。			
	皮膚の保護	有機溶剤又は化学薬品が浸透しない手袋を着用する。			
	呼吸系の保護	有機ガス用防毒マスクを着用する。 密閉された場所では送気マスクを着用する。 スプレー作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用すること。			
	その他の保護具	静電塗装作業を行う場合には、通電靴を着用すること。			
9 物理的及び化学的性質	状態 : 液体	蒸気圧 : 3900.0Pa			
	色 : 微赤色	蒸気密度 : データなし			
	臭気 : 溶剤臭	密度(比重) : 1.1			
	pH値 : 該当せず	溶解度 : データなし			
	沸点 : 100.9~ 145.1	n - オクタノール / 水分配係数 : データなし			
	引火点 : 22	発火点 : 421.0			
	爆発限界 : (下限) 1.1% (上限) 12.5%	分解温度 : データなし			
10 安定性及び反応性	反応性安定性	通常の条件下では安定である。			
	危険有害反応可能性	接触による危険性のある物質 異物(金属粉等)・過酸化物質(硬化剤)の接触で発熱する。			
		燃焼などによる有害性ガスの発生 CO、NOx、低分子モノマー等の有毒ガスを発生する恐れがある。			
		その他の反応情報 熱・光により重合反応を起こし、発熱することがある。			
	避けるべき条件	高温、火花、裸火、静電気火花			
その他の危険性情報					

<p>1 1 有害性情報</p>	<p>急性毒性 吸入（蒸気）： スチレン（区分4）</p> <p>皮膚腐食性 / 刺激性 : スチレン（区分2）、メタクリル酸メチル（区分2）</p> <p>眼に対する重篤な 損傷性 / 眼刺激性 : スチレン（区分2A）、メタクリル酸メチル（区分2A）</p> <p>呼吸器感作性 : メタクリル酸メチル（区分1）</p> <p>皮膚感作性 : メタクリル酸メチル（区分1）</p> <p>生殖細胞変異原性 : スチレン（区分2）</p> <p>発がん性 : スチレン（区分2）</p> <p>生殖毒性 : スチレン（区分1B）、メタクリル酸メチル（区分2）</p> <p>特定標的臓器 / 全身毒性（単回ばく露） : スチレン（区分1 中枢神経系）（区分3 気道刺激性）、メタクリル酸メチル （区分3 気道刺激性、麻酔作用）</p> <p>特定標的臓器 / 全身毒性（反復ばく露） : スチレン（区分1 呼吸器、神経系、血液系、肝臓）、メタクリル酸メチル（区 分1 呼吸器、中枢神経系）</p> <p>吸引性呼吸器有害性 : スチレン（区分1）</p>
	<p>組成物質に関するその他の有害性情報 メタクリル酸メチルは麻酔作用がある。</p>
	<p>製品に関する有害性情報 製品としての安全性試験は行っていない。</p>

